

# 水土里ネットの和

発行：水土里ネット和歌山（和歌山県土連） 和歌山市雑賀屋町1番地  
会長：二階俊博 TEL：073-432-2567 FAX：073-433-1490



## 主な内容 (CONTENTS)

○新年度のご挨拶（中村副会長）・和歌山県 角谷農林水産部長就任挨拶・・・	2
○第61回和歌山県土地改良事業団体連合会の通常総会開催	4
○平成30年度第3回監事会及び理事会の開催について	5
○2019語り部交流会inわかやまの開催	5
○会計検査院4局農林2課による実地検査	6
○農村振興局の平成31年度概算決定に係る予算キャラバンの実施	6
○平成30年度多面的機能支払交付金活動研修会	7
○農業土木歴史偉人フォーラムの開催	7
○水土里ネット和歌山からのお知らせ（新しい職員の紹介）	8

### 新年度にあたって



水土里ネット和歌山  
和歌山県土地改良事業団体連合会  
副会長 中村 慎 司

新年度を迎え、会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

年度末の第61回、和歌山県土地改良事業団体連合会の通常総会に多くの会員のご出席を賜り、また、熱心に議論をして戴き誠にありがとうございました。東京から駆けつけて下さった二階会長の出席の御陰で、充実した通常総会にすることが出来ました。

また、総会後の意見交換会においても、二階会長から叱咤激励のお言葉もあり、会員一同身が引き締まった思いです。

4月1日、新元号「令和」が発表され、いよいよ新たな時代の幕開けとなりました。安部首相は新元号に「厳しい寒さの後に見事に咲き誇る梅の花のように、1人1人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる日本でありたいとの願いを込めた」との談話がありました。

我々もこの想いをうけ、農業、土地改良を取り巻く環境をより良いものとし、和歌山県の農業振興に寄与していかなければならないと強く感じたところです。

一方、4月1日より改正土地改良法が施行され、財務会計制度の見直しに伴う複式簿記の導入や、所有、管理する土地改良資産評価の実施、会計監査に関する監査機能の強化として員外監事の導入など、土地改良区として取り組むべき課題が増えてきています。

当連合会としましても会員の皆様方の期待に添えるよう頑張ってお参りたいと考えております。

また、今年度予算は、昨年度2次補正を加えると、大幅削減前の5800億円を大きく超えましたが、当初予算だけでは、以前の7割とまだまだ、十分でない状況にあります。土地改良事業を計画的に実施するには、当初予算での確保が必要であると叫ばれています。

土地改良を取り巻く状況をより良いものにするため、本連合会の二階会長が提唱する「闘う土地改良」の旗印の下、安定的な予算確保に尽力したいと考えております。そのためにも、今年度から新たに理事に就任しました鶴保庸介参議院議員や既に全国で活動している進藤参議院議員のお力添えを戴くことは言うまでも無く、加えて、これから新たに活躍してくれる宮崎まさお水土里ネット会長会議顧問を国政の場に送り込む必要があると考えておりますので、会員の皆様方におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年度に当たってのご挨拶と致します。

## 角谷農林水産部長の就任ご挨拶



和歌山県農林水産部  
部長 角谷 博史

平素より土地改良区及び市町村の関係者の皆様方のご尽力により、数多くの土地改良事業が推進され、本県農業農村の整備に多大なる貢献を果たされてこられたことに対しまして厚くお礼申し上げます。

さて、本県農業を取り巻く情勢は、人口減少社会の到来や相次ぐ大規模災害の発生、グローバル化の進展に加え、農業後継者の減少や高齢化、耕作放棄地の増加など解決すべき課題は山積しております。

このため、県では「収益性の高い農業」の実現に向け、国内外への販売促進をはじめ、省力化・生産性向上に向けたスマート農業の推進や、優れた経営感覚を持った担い手の育成等に加え、農業生産の場である基盤整備・保全に重点的に取り組んでいます。

具体的には、小規模なほ場整備といった基盤整備により担い手農家への農地集積・集約を図ったり、農業水利施設の高度化や長寿命化に取り組むほか、災害に強い農村づくりのため、「ため池改修加速化計画」を策定し、計画的な改修整備を推進するとともに、各市町村においてハザードマップを作成して頂くなどソフト対策も進めているところです。

平成31年4月19日には、国及び地方公共団体の役割分担や所有者、管理者が果たすべき責務などを明らかにするための「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が成立しました。この法律が施行されますと、所有者等による県への届出義務や県によるデータベースの整備・公表、さらに、所有者等による適正管理が求められることとなります。県としましても適正な管理を行っていただけるよう支援してまいります。

これまで、会員の皆様に土地改良施設を管理いただくことにより、水源涵養、生物多様性、景観形成など多面的な機能が発揮され、豊かな農村環境が維持されてきました。これらは、本県のみならず国民全体の財産でもあり、次世代に継承していくことが重要でありますので、引き続き皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様の今後ますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶と致します。

## 第61回和歌山県土地改良事業団体連合会通常総会

平成31年3月23日(土)、15時からルミエール華月殿にて、和歌山県土地改良事業団体連合会の第61回通常総会が二階会長出席の下、盛大に開催されました。来賓には、当連合会顧問の仁坂知事、神山近畿農政局長、門衆議院議員、宮崎まさお水土里ネット会長会議顧問ほか、多くの方々が出席され、ご祝辞を戴きました。

総会では、議長に名田周辺土地改良区の前田理事長が選任され、上程された13の議案について、全会一致で会員の承認が得られました。主な議案は、以下のとおりです。

また、今回は3月末で役員任期満了となるため、総会の途中で、会で選任された詮衡委員による委員会を開き、役員候補が総会に提案され、新役員が決定したところです。

### ○提出議案

- 第1号議案 平成29年度事業報告について
- 第2号議案 平成29年度一般会計収支予算について
- 第3号議案 平成29年度特別会計収支予算について
- 第4号議案 平成29年度財産目録について
- 第5号議案 平成30年度一般会計収支補正予算について
- 第6号議案 平成31年度事業計画について
- 第7号議案 平成31年度一般会計収支予算について
- 第8号議案 平成31年度特別会計収支予算について
- 第9号議案 定款の一部変更について
- 第10号議案 平成31年度部課金の徴収について
- 第11号議案 余裕金の預入先及び運用方法について
- 第12号議案 一時借入金の限度並びに借入方法について
- 第13号議案 役員を選任について

現行の役員が全て再任されたことになり、加えて、鶴保参議院議員が新たな理事として承認されました。

総会終了後、第4回の理事会、幹事会を開催し、互選の結果、会長、副会長、代表監事も再任となりました。

総会後の懇親会では、二階会長の挨拶で7月の参議院議員選挙での宮崎まさお氏の必勝を期すべく、応援していくことを力強く述べられました。

3月26日(火)には、東京の都市センターホテル5Fにて、全国土地改良事業団体連合会の第61回通常総会が開催されました。全土連においても3月末で役員任期

となるため、新たな役員を選任が行われ、その結果、二階会長は再任され、副会長のうち、西村副会長が退任され、替わって義経副会長が新たに互選されました。また、今期から学識経験者として愛媛大学の武山絵美教授が理事に選任されたところです。



武山教授は、京都大学の九鬼先生と共に本県古座川町潤野で学生による営農支援や獣害対策など、地域づくりに関わってくれています。今後の活躍に期待したいところです。

総会終了後、シェンバツハ・サボウにて、全国水土里ネット表彰式が行われ、本県からは、大井堰土地改良区の元理事長の小塚晴保さん、和歌山県土地改良事業団体連合会の辻村博明さんが功労者表彰を受けました。



## 平成30年度第3回監事会及び理事会の開催

平成30年度第3回監事会が2月14日（木）に和歌山県土地改良事業団体連合会の役員室にて、第3回理事会が2月19日（火）にルミエール華月殿において開催されました。

監事会では、平成30年度の予算の執行状況と補正についてを議事とし、各監事から意見を戴き、理事会では、平成31年度の事業計画や予算、また、定款の変更、服務規程の廃止、設定など13議案を審議、承認戴き、総会に提出する議案が決定しました。

## 2019語り部交流会inわかやまの開催

1月24日（木）、和歌山県と和歌山県土地改良事業団体連合会の主催により、紀南文化会館において、「2019語り部交流会inわかやま」を開催し約300人の来場者で会場は埋め尽くされました。

本交流会は「地域の「絆」が育んだ持続的農業」をテーマに梅と日本人の関わりにスポットを当てた

「過去からの絆」から、平成27年世界農業遺産に認定された「みなべ・田辺の梅システム」とともに農村景観と地場産業を通じて与えられる「現代の絆」、そして、整備された基盤や梅を活用した「これからの絆」について語ることで、和歌山県、特にみなべ・田辺地域で育まれてきた「地域の絆」への理解を深めることを目的に開催されました。



講演では、ネイチャー・フォトグラファーの内山りゅう氏より「梅が醸し出す美しい景観」と題してみなべ・田辺地域における農村景観、生物多様性、地場産業や梅農家の営み等が紹介されました。

続いて、語り部・かたりすととして活動している平野啓子氏より、古来より伝承されている梅の効用、万葉集等で読まれてる和歌の朗読、地場産業の状況、梅と日本人との関係について紹介された。

その後、平野啓子氏をコーディネーターとして、「地域の「絆」とひらかれた農村」と題し、5名のパネラーによる語りフォーラムがパネルディスカッション形式で行われ、南紀用水土地改良区の松川理事長も梅生産を支える取り組みを発表しました。



## 会計検査院4局農林2課による実地検査

2月18日(月)から22日(金)にかけて、会計検査院農林水産第2課の実地検査がありました。畑野統括調査官以下6名の検査官が、各振興局において実地検査を行いました。調査の主なテーマは、ため池の防災減災対策、多面的機能支払交付金事業、並びに中山間地域直接支払い交付金事業の3点でした。工事に係る個別検査もありましたが、特に指摘等はありませんでした。

ため池の防災減災対策では、重要度区分AA種のため池は、レベル2地震動に対する耐震性能を評価すべきといったこと、ため池の氾濫解析を行っているが、ハザードマップを作成されておらず、事業効果が発揮されていないといった指摘がありました。

多面的機能支払いでは、町道の補修工事に長寿命化の活動がされていたこと、資源向上支払いで単価減額となる直営施工の有無を確認していなかったことなどが指摘されました。

中山間直接支払いでは、農家所得が高額である農家の扱いについての疑義等が指摘されたところです。

当会が関わっていた多面的支払い交付金にかかる推進交付金については、特段指摘も無く無事検査が終了したところです。

## 農村振興局の平成31年度概算決定に伴う予算キャラバンについて

3月7日(木)、ルミエール華月殿において農業農村整備事業等に関する説明会・意見交換会(予算キャラバン)が行われました。農林水産省農村振興局整備部水資源課から杉山一弘農業用水対策室長をはじめ、近畿農政局の青山農村振興部長、各担当職員が出席され、1部では、平成31年度の農業農村整備に係る予算の説明、2部では、土地改良区理事長を交えた意見交換会が行われました。説明会には、市町村、土地改良区から95名の参加があり、皆さん熱心に説明を聞いていました。

意見交換会では、参加した土地改良区の理事長から、都市化による混住、農家の担い手の減少など、紀北地域の土地改良区の運営が厳しくなっていることや、土地改良区が管理するため池の対策など、また、有田以南の果樹地域の改良区から、農家の労働力不足など厳しい営農環境にあることなどが意見交換されました。

農水省としても、果樹農業への対策など、中山間地域対策に積極的に取り組んで行く旨の説明がありました。有意義な意見交換となったところです。



## 平成30年度多面的機能支払交付金活動研修会

3月11日（月）、和歌山県民文化会館小ホールにおいて平成30年度多面的機能支払交付金活動研修会が開催され、活動団体をはじめ339名の参加がありました。

研修会では、第1部の機能診断・補修技術等の研修として、信越化学工業株式会社の上山担当部長から、水路の簡易補修（目地）方法について、また、第2部の事務・組織運営の研修では、当連合会辻村副参事が書類作成の注意点についてを説明しました。

また、「講演」として元農林水産省農村振興局地域整備課長で、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の宮崎まさお氏が、農業農村の現状と地域活動と題して、全国での多面的機能支払交付金活動の現状についてを講演されました。

多面的機能支払交付金活動は、地域にとって非常に有意義な事業であります。農業者の高齢化などで、活動を断念する地域も増えています。当連合会としても行政と連携しながら、活動の支援に取り組んでいきたいと考えています。



## 農業土木歴史偉人フォーラムの開催について

3月14日（木）、世界かんがい施設遺産（小田井用水路）登録記念として、和歌山県が主催、水土里ネット和歌山が後援による農業土木歴史偉人フォーラム～新田開発を支えた紀州流土木工法～と題した講演会が東京の都道府県会館1F 大会議室において盛大に開催されました。関係土地改良区、農水省、水資源機構、全土連、和歌山県などから300名近くの参加がありました。

フォーラムでは、作家で土木史研究家の高崎哲郎氏が『水の匠・水の司』”紀州流”治水・利水の祖－井澤弥惣兵衛－と題して講演を行いました。

土木技術が画期的であったというだけでなく、資金面、手法面から新田開発を行う、経営者としての高い能力を有していたといったことや井澤弥惣兵衛は、百姓の気持ちがあり人徳があったのでこのような大事業が出来たのだとといったことなどが話されました。

井澤弥惣兵衛や大畑才蔵が設計した小田井用水や見沼代用水は300年経っても、なお現役であることからすると大変な偉業であったことを改めて理解したところです。



## 水土里ネット和歌山からのお知らせ(新人紹介)

○4月1日から新しく本連合会事務局に採用された職員を紹介します。



川口侑吾（23）技術情報課 技師  
（抱負）日々誠実に励むつもりでございますのでご指導ご鞭撻のほど  
よろしくお願ひいたします。



坂垣内貴子（41）技術情報課 技師  
（抱負）水土里情報を担う1人として、会員様へのサービス向上を心  
がけ、気持ちを新たに頑張っていきたいと思ひます。



前田泰宏（60）総務指導課 主幹  
（抱負）市役所（農地課）で培ったノウハウを県土連で最大限發揮し  
頑張りたいと思ひています。



辻村博明（60）技術情報課 主幹  
（抱負）引き続きお世話になります。38年間培った知識やテクニッ  
クを現役職員に伝えていきたいと思ひています。

○人事異動を発令しました

榎本至剛 事務局次長、技術情報課長事務取扱（技術情報課 課長）

赤松大樹 技術情報課 課長補佐（技術情報課 係長）

柏木由貴子 総務指導課 主事、技術情報課兼務（技術情報課 主事）

### 【編集後記】

5月1日から新元号となり、新しい時代の幕開けです。

和歌山県土地改良事業団体連合会では、年度末に1名の退職がありましたが、新規採用2名、再雇用等2名により、事務局以下11名の人員体制で業務に取り組んで参ります。土地改良法改正に伴う会員への支援や、防災減災対策としてのため池の浸水想定区域図やハザードマップの作成など、会員のニーズに対応できるよう積極的に取り組んで参りますので、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。